2014　愛知県立大学スクールソーシャルワーク教職員研修

ニューズレター　No.4

2014 年 12 月 18 日

School Social Work Teacher Training Program Newsletter　発行：SSW 教員研修事業事務局
（TEL & FAX: 0561-76-8724　tsuboi@ews.aichi-pu.ac.jp）

スクールソーシャルワーク教職員研修参加者の皆さん　こんにちは。学期末で猛烈にお忙しい日々をおすごしのことと思います。今朝は一面銀世界ですね。

さて、過日の研修会では、新春１月の事例演習にかかわって「作業課題(宿題)」を出させていただきました。まず、２つの事例について、書き込んでいただくアセスメントシート（２種類）を添付ファイルでお送りしましたので、ご確認ください。１つのファイルに２つをまとめています。A4 用紙にプリントアウトすると４枚になります。合わせて、作業課題の内容を、念のため、本ニューズレターにて記しておきましたので、よろしくお願いします。

また、合宿は、26 名中 17 名の参加で、講師は 11 名中８名の参加です。夕食会の後も、２つの和室を繋げて、テーブルとイスをアレンジした「しゃべり場」を用意しております。温泉につかりながら、ゆったりと語り合えるのを楽しみにしております。

今年は本号が最後です。本研修参加者の皆様には、スクールソーシャルワーク教職員研修教材開発に向け９月以降ご協力を賜り、講師チーム一同、こころよりお礼申し上げます。新春からの後半も引き続きよろしくお願いします。

それでは皆様、厳寒の折柄、年末年始を御身大切にお過ごしくださいますよう。佳いお年をお迎えください。

■　第4回 １月１０－１１日のプログラムのご案内

１日目：１月 10 日（土）

12:30～　　受付
1:00～1:05　事務連絡
1:05～4:45　事例演習（２）不登校・特別支援とソーシャルワーク
【宇都宮/望月/吉川/山本/水野】
4:45～5:00　　参加者アンケート（感想・コメント）記入
（合宿参加者）
5:15　正門集合（金泉閣のバスにて移動）
翌朝 8:20 ロビー集合　８時 40 分大学着

２日目：１月 11 日（日）

8:40～　　受付
9:00～9:05　事務連絡
9:05～12:45　事例演習（３）経済的困窮家庭の子ども支援とソーシャルワーク
【野田/坪井/杉原】
12:45～13:00　参加者アンケート（感想・コメント記入）

■ 第4回（1/10－11）までにやってきてほしい作業課題について

【事例２　不登校・特別支援教育とソーシャルワーク（1 月 10 日)】

（事例が印刷されている裏面を見てください）

【演習課題】１．事例の情報をアセスメントシートに記入してください。アセスメントシートは添付の２種類のうち､自分が書きやすい様式を使用する｡空欄があってもかまわない。

２．もっと知りたい情報や、確かめたい情報などあれば演習課題２の欄に記入してください。

【事例３　経済的困窮家庭の子ども支援とソーシャルワーク（1 月 11 日)】

作業課題１．事前配布資料①事例「貧困を抱える家庭の子どもたちの今、そして将来～家計のために朝早くから夜遅くまで働く母親と子どもたちの生活」について。アセスメントシート（添付されている２つの様式のどちらでも可）に分かっている情報を記入してください。

作業課題２．事前配布資料②ワークシート「相対的貧困家庭の生活を家計から考えるワーク」について。37 歳の夫婦と中学１年生の子ども一人の核家族を想定し、日本の平均的な家庭の家計１カ月３４万円で考えてください。ワークシートにしたがって各項目でどのくらいの支出があるか、一般家庭①の欄に記入してください。

参考文献について

事前配布資料③～⑧については、できるだけ事前に、以下の資料説明を参考に目をとおしておいてください。なお、資料に掲載されている政策動向や法制度は、執筆当時のものになります。最新の政策・制度については講義等で適宜補足します。

③文部科学省「文部科学省における子供の貧困対策の総合的な推進」

文科省の子どもの貧困対策における学校の位置付けに注意しながら読んでみてください。（杉原）

④名古屋市教育委員会「平成 26 年度就学援助のお知らせ」

就学援助制度は、どのような子どもの家庭が対象で、どのような補助が受けられるのか、名古屋市の事例を紹介しております。保護者の立場で、読んでみてください。（坪井）

⑤鹿島丈夫「貧困家庭の子どもたちへの支援」（門田光司・鈴木庸裕著『ハンドブック　学校ソーシャルワーク演習ー実践のための手引きー』ミネルヴァ書房　2010 年

学校を起点にして、貧困家庭の子どもや学校をどのように支援することができるのか、まとめてあります。子どもの貧困に関する政策動向や連携の可能性がある社会資源について確認できます。また、事例に沿ったアセスメントシートやエコマップの作り方も参考になります。（野田）

⑥峯本耕治著「第３章　学校教育から見る子ども虐待と貧困」

筆者は関西を中心に教育・福祉の現場にかかわってきた弁護士です。この論文は、筆者の経験も踏まえながら、学校教育に関わる貧困問題について特に虐待との関連で議論しています。学校の場で現れる問題の背後にある「見えにくい不利」とは何か、学校で現れる問題と虐待（ネグレクト）や貧困がどのように関連しているのかを考えながら読むことができます。また、学校で現れる問題に対応するために、どのようなことを学び、支援体制をつくっていく必要があるのか、それぞれの読み手の立場や状況にひきつけて考えることが望まれます。（野田）

⑦山田壮志郎著「第１章　生活保護の基礎知識」

生活保護はさまざまな社会保障・社会福祉の事業のなかでも「最後の拠り所」に位置づけられます。生活保護は新聞等でもよく取り上げられるようになりましたが、ネガティブなイメージがまとわりついているかと思います。他方で、生活保護とはどのような制度なのか、どのように運用され、利用できるのか、ということはあまり知られていません。この論文では、生活保護を利用するために不可欠な事業の知識や動向が簡易にまとめられています。（野田）

⑧志水宏吉「第４章　学校の力を探る―『効果のある学校』論」

経済的に苦しい家庭が多い校区でも、逆境にめげず、子どもたちがきちんと学力をつけている「力のある学校」が、日本にもあります。欧米では　“effective school”　（効果のある学校）と呼び、この 20 年間研究がすすんでいます。文科省の支援を得て行った全国調査に基づき、志水さんが提起している「しんどい子に学力をつける７つの法則」や「『力のある学校』のスクールバスモデル」（８つの要素）について考えてみましょう。例えば、これらを基準に、あなたの学校を自己診断してみてください。どれがすでに取り組めている実践ですか（あなたの学校の強味）、どれがもっとも遅れ実践が困難なことがらですか（弱点）。また、それはどうして困難なのでしょうか。ソーシャルワークの技法を活用して、すべての子どもの基礎学力保障をめざす教職員のチームづくり（同僚性）について考えてみましょう。（坪井）

■　第3回（１２/６）のアンケートのまとめ

第３回の研修について、アンケートありがとうございました。「本日の研修で、理解が深められたり、有意義だと感じられたのはどんな点ですか。」についてのコメントを中心に紹介します。なお、石田ゲスト講師に対する質問や要望については、１月合宿のときまでに、補足説明メモなどをお願いしておりますので、しばらくお待ちください。

「虐待」をテーマにした石田ゲスト講師の講義について

①石田先生のお話は、子どもたちを支援するプロフェッショナルの実際に触れることができて、「任せていいんだ。」と改めて感じることができました。連携を考えるうえで他機関を認め合うことは大切なことだと考えます。多くの教員にどのような仕事をしているか、もっと知ってもらいたい、とも思いました。

②石田先生の講義は具体的な話で、少し知ってはいるものの、よく知らないという部分が教えていただけてよかった。できればもっと話が聞きたい。

③石田様のお話で、今まで知らなかったことが知れただけでなく、「人柄で動いているのだなあ」と構成員の資質、能力の高さを感じました。（教職員も負けてはいられません）

④児童相談所の活動内容がよく分かった。「こうやるんだ」「ここまでできる」ということは、多く

の教職員は理解していない。とても有益な内容でした。

⑤児童相談所の方に対する印象はあまりよいものがなく、前任校でも、突然“一時保護”とか言われ、子どもを連れていかれ、保護者が学校へ怒鳴り込んできたということがあった。今抱えている事例も３歳児検診の時の児相のかかわりに問題があるとか…が多い。でも今日は児相側からの話が聞けて少し理解ができた気がする。

⑥児相（石田先生）の取り組みについての講義が非常に良かった。児相の方の事後との内容、対応の仕方、子どもを救うのはもちろんだが、その親を助ける（援助する）という考え方、姿勢がSSW そのものの考えかたに匹敵すると思う。

⑦児童虐待に対して児相がどのような働きかけをしているのかがわかり、とても参考になった。今週、実際に一時保護の児童が出て、児相に保護されたのだが、学校としてどうしたらよいのか、児相ではどうなっているのかわからないことが多かったのだが、少しわかり良かった。学校に帰って対応について相談していきたいと思う。

⑧石田先生の講話で、子ども虐待は親御さんの SOS ととらえる、という視点が大変重要であると感じました。親御さんを支援対象と見なし、家族のサポートをすることで子どもを守りたいと改めて思いました。

⑨石田公一先生のお話は、具体的な事例を通して児童相談所のはたらきや学校があるべき姿についてお話をいただき、大変勉強になりました。子どもたちを守るという意味で、自分の立場でできること、また、以前を振り返って反省すべきことを確認することができました。

⑩子どもの姿、様子を一番間近で見ている学校、教員の責任の重さを改めて実感しました。そして発見するだけでなく、解決に向けての道筋を理解し、問題をその道にのせることの大切さも再認識しました。ためらいが大きなことにならないよう、やってみて、何事もなければそれでよいという気持ちで事に当たりたいと思う。

⑪児童虐待については、どの事例もとても胸が痛みました。しかし、「保護者もケアの対象」と教えていただき、認識が変わりました。対応、継続指導はとても時間がかかることもわかりました。通告後の児相の対応、顕現、警察の動き等についてもよくわかりました。通告はためらいます。でも、今日教えていただいたことで学校がどう対応すればよいかがわかりました。

⑫虐待ということに対して、なんとなくわかっていたつもりでしたが、石田先生のお話を聞いて、少し明確になりました。児相のできること（権限）についても参考になりました。ただ、通報ということを考えると、どのタイミングでするべきなのかは悩むところです。

⑬石田先生のお話は、実践に裏付けられたお話で重みを感じました。虐待の事象に目を向ける問題の事象のみにとらわれるのではなく、保護者のおかれる状況を理解し、保護者を支えていくことが大切なのだということが実感できました。

（以下、質問、要望）

⑭石田先生の講義をきいて、私がこれまで対応して頂いてきた児相とはずいぶん温度差のある印象を受けました。通告か相談かというようなことも言われたような気がします。児相の姿勢は地域によって、あるいは相談所によって違うのが普通なのでしょうか。それとも、経験年数が少ないために理解が浅いのでしょうか。

⑮虐待なのか、そうでないのか判断に迷うケースが本校でもあるが、学校では対応できない部分もあり、地域資源とどう関連していくとよいのか、もっと勉強していきたい。

⑯現在支援する中で、家族関係の調節が必要と思われるが、石田先生のお話の中で「家族療法」を取り入れてらっしゃる事例の紹介がありました。なかなか家族調節療法をやっているところがなくて…という悩みがあります。

⑰児相の対応は、それぞれの相談所の方針で違っている？ネグレクトの定義はあるのか。ネグレクトを私たちはネグレクトしたくない。
⑱CAPNA を活用しての通告についてもう少し詳しく知りたいです。

「いじめ」をテーマにした山本講師の講義について

①山本先生の講義は、学校内で起こることとしては大変興味がある。今後事例研究も含めて、いじめについて考える機会があると良いと思う。
②山本先生のいじめのお話は、日常的にある“いじめ”と呼べないようなものも、見逃さないようにする視点を持つことが大切なのではないかと感じました。異変に気づく、その気づいたことを共有する、そのような組織的な対応ができる環境づくりをすべきだと思います。
③虐待、いじめともに関係性や環境の調整が必要であると再確認できた。子どもたちの未来のために「今」やるべきこととやること。子どもを育てる支援が子ども未来を育てること。
④山本先生の講義では、いじめの定義の変化もなるほどと思えた。
⑤いじめについてのお話も具体的でよく分かりました。
（以下、質問、要望など）
⑥いじめとスクールソーシャルワークの点では、教員がいじめを発見したり気付いた時の具体的な対応方法などを示していただけると、現場に持ち帰り実践にむすびつけられるものになるのでは、と感じました。デリケートな問題に対し、チームアプローチを実践していく意義のようなものも少し詳しく説明して頂けたら嬉しく思います。
⑦「いじめとスクールソーシャルワーク」がやや一般論で収まってしまったように感じるので、学校という閉鎖空間にどう外部の人が切り込めるのか、また、学校に求められる対応は何なのかについて、次回等機会があれば伺いたいです。
⑧「いじめ防止対策推進法」の法律に基づくと、山本氏の説明のいじめのケースで「しなければいけないこと」という認識を学校が持てるようにと思うのですが…

TA の早川さん、水野さんの発表について

①教員として勤め、「もやもや」を感じ、自ら行動を起こされた水野先生を尊敬します。
②水野 TA からのケース会議の定義「だらだらやらない」「責任として必ず発言する」「非難しない」「鶴の一声はなし」。日頃ケース会議をやり慣れている特別支援学校だが、うまくまとまらないのはこの定義のようにやっていないからだと再認識した。わかっていそうなことだが、会議の前に確認することも大切と感じた。すぐにでもやってみます。
③早川様の「はじめて日清に配置されるときに不安であった」というところ、早く SSW がいて当たり前だと思えるような環境づくりをしたいと思いました。

宇都宮講師のアセスメントシートの説明について

①宇都宮先生の話はとてもわかりやすかったです。
②これまでジェノグラム、ダイアグラムはなじみがありますが、エコマップまで拡大して書いたことがありませんでした。練習して、使いこなせるようになりたいです。
③アセスメントシートの書き方、課題についてもう少し時間をとってほしかった。

全体の運営などについて

①宿題がおもしろそうです。頑張って時間を見出して取り組みたいと思います。

②現在、学校は団塊の世代がどんどん抜け、急速に立場が変わっていきます。今回のような虐待の話、学校に求めることなど、毎年、例えば校長会などで話していただけるとよいと感じました。
③現在、学校は団塊の世代がどんどん抜け、急速に立場が変わっていきます。今回のような虐待の話、学校に求めることなど、毎年、例えば校長会などで話していただけるとよいと感じました。
④やはりアンケートも大切ですが、グループで感想をシェアする時間があるとよいと思います。

■ 合宿参加者の皆さんへ

車でお越しの方で、マイクロバスをご利用の場合は、車はキャンパス内の駐車場のどこでも OK です。マイカーでホテルに行かれる方は、ロビーにてお待ちください。参加費を到着後、ホテルのロビーにて徴収します。宿泊者は 15,000 円、夕食会のみの参加者は 7,200 円です。お釣りのないようにお願いします。部屋は、基本的に 3 人づつですが、割振りはお任せ下さい。以下には、基本情報を再掲します。なお、急に参加できる、できなくなった場合は、坪井までメール（本「ニューズレター」タイトル枠に記載）でお知らせください。

宿泊施設：猿投温泉 ホテル金泉閣（豊田市加納町馬道通 21　TEL:0565-45-6111）
参加費：1 泊 2 食 13,608 円+飲み物代＝約 15,000 円（懇親２次会は、自販機にて各自持込）
　　夕食会（温泉付）のみ参加の場合：5,832 円+飲代＝約 7,200 円
＜1 月 10 日（土）＞
（午後 1 時～5 時　研修）
午後５時 15 分　大学正門よりホテルの送迎バスにより移動。マイカーは大学に翌日まで駐車可能。
　　マイカーによる移動も可（ホテル無料駐車場有）。
5 時 30 分～7 時　各自部屋へ移動ののち、温泉タイムⅠ
7 時～8 時 30 分　夕食会（懇親会）
9 時～　懇親二次会・温泉タイムⅡ（和室にテーブルと腰掛イスを宿泊人数分用意します）
＜1 月 11 日（日）＞
7 時～8 時 30 分　朝食・温泉タイムⅢ
8 時 30 分　ホテルより大学まで送迎バスで移動
（9 時～午後 1 時　研修）